【資料２】

八尾市多文化共生推進計画進捗状況の評価方法について

➢ **前回の会議で示した２案**

Ａ案　各年度の実績について、外国人に特化した事業を実施できたかどうか、A～D で分類した後に、進んでいるか（高いか）を A～D で評価する。

Ｂ案　現行の「実績」「評価理由」を合わせて「評価」とし、詳細を記述する。

（前回の会議で出た意見）

・評価について、Ｂ案のように文章で書くとわかりにくく、Ａ案のように A～D で評価するのはよい。

・Ａ案について、分類も評価も A～D で同じになると、わかりにくい。

・外国人市民を対象にした事業ではないのに、評価がよいものがあるのはわかりにくい。

➢ **事務局案**

各年度の実績について、外国人市民を対象に実施された事業かどうかを①～④で分類した後に、多文化共生推進に寄与しているかどうかを A～D で評価を行う。その後、分類または評価の理由を記述する。

分　類　⇒　その年度に実施された事業が、外国人市民を対象に実施されたかどうかを①～④で分類する。

①　「外国人を対象として（テーマとして）事業を実施した」

②　「外国人を含む市民を対象に事業を実施した」

③　「外国人を対象に入れて（テーマとして）事業を実施しなかった」

④　「事業自体を実施しなかった」

【資料２】

評　価　⇒　外国人を対象とした①、②に分類される事業に対して、評価を行う。

③、④に分類したものは、評価しない。

A　「多文化共生推進に寄与している」

B　「多文化共生推進にどちらかといえば寄与している」

C　「多文化共生推進にどちらかといえば寄与していない」

D　「多文化共生推進に寄与していない」

理　由　⇒　評価した分類①、②の事業に対しては、評価の理由を記述する。

評価していない分類③、④の事業に対しては、分類の理由を記述する。